

# OUR 新日本スポーツ連盟東京都連盟

# SPORTS

〒170-0013 豊島区東池袋2-39-2  
大住ビル401  
TEL 03-3981-1345 FAX03-3981-8315  
E-mail njsf@tokyo.email.ne.jp  
2月号 2009年2月1日

## 東京都連盟NEWS

### これぞ北区連盟に結集した会員のエネルギーの発揮

スポーツへの想いを束ねて  
10年となる「北区ナーレ」

北区スポーツ祭典は、23種目が半年あまりの期間を要して開催されるため、参加者には「北区スポーツ祭典」のくくりは見えにくく、種目ごとのイベントに見えてしまいがちでした。そこで生まれたのがこの「北区ナーレ」。

「だれでもきたくなーれ!」という期待感とスポーツ祭典のフィナーレを凝縮した造語が「北区ナーレ」。「閉会式典」なんて堅いイメージを払しょくして、お陰様ですでに10年以上も続いており、すっかり定着しました。「スポーツ連盟もこうした行事をやるようになったね」「このイベントで、スポーツ連盟の運動の規模が見えてくる」という声が寄せられています。



昨年は12月23日に、赤羽会館の大ホールで開催。プロのシンガーソングライター古瀬陽子さんのライブあり、スポーツグッズのオークションあり、そして各種目の入



賞者の表彰式など企画満載。

ただし、食べ物が直ぐに売り切れてしまるのが悩みの種で、小学生バレーボールの父母会のみなさんからは、大きな鍋2杯の手作りおでんが振る舞われるなど、いろいろ工夫をしています。

今回は、出場選手、役員、等々150名を超える参加者を数えており、来年も再来年もさらに大きく広がっていく予感をさせていました。

新春理事会セミナーは理事の「栄養補給」

1月10日、11日、国立女性教育会館では、土曜日の座学、夜の交流会、日曜日のスポーツ研修会と1日半をかけ

てのセミナーでした。明日からのスポーツ連盟の運動を推進するための中身の濃い栄養を補給したセミナーとなりました。

座学では、第1課「スポーツ連盟のあゆみ」(講師:伊藤高弘顧問)、第2課「スポーツ連盟北区の組織機構」(萩原理事長)、第3課「組織拡大しているバレーボール協議会の運営」(大平一夫/バレーボール協議会運営委員長)、第4課「スポーツ心理学」(阿部治常任理事)、第5課「吉田えりのナツクルは、通用するか」(明石太基事務局長)と盛りだくさんでした。伊藤顧問には、30年ぶりに北区理事会にお出で頂きましたが、伊藤先生のお話を聞くのが初めての理事は、歴史的な重みのあるスポーツ連盟のあゆみを熱心に受講していました。

二日目は、午前中に卓球教室とフットサル教室。午後は、テニス教室と該当種目の理事を先生として、熱心な教室が開催されました。フットサル教室は、初めての取り組みでした。

来年の「理事会セミナー」は、1月9日、10日に開催します。興味のある方の参加を歓迎いたします。

(北区連盟理事荻原純一)

## 杉並ではじめてミックスバレー大会を開催

(杉並区連盟)

1月11日、上井草スポーツセンターで杉並スポーツ祭典の一環として今年初めてミックスバレーボール大会を開催しました。

これまで、9人制のレディースバレーボール大会を開催してきましたが、メンバーの高齢化などからチームが組めなくなってきているなど徐々に参加チームの集まりが悪くなってきて

いたので、今回、今人気のあるミックスバレーボール大会に挑戦してみようということになりました。また、比較的若年層の多い一般の6人制のクラブでも、最近の社会情勢を反映してメンバー集めが大変で苦労しており、お互いに足りないメンバーを補うことが出来るミックス種目が歓迎されています。



試合には8チームが参加し、A,Bブロックに4チームずつに分かれて予選リーグ後、同順位決定戦を行ないました。優勝はモンチャック、準優勝はルービーズBでした。(北川)

### ミックスバレーとは?

6人制のバレーボールで、スポーツ連盟内の主なルールとして、男子が常に1名から3名コート内にいなくてはならない。男子は常にスパイクは、アタックラインより後ろで行い、ネットより高い位置でボールに触ってはいけない等。

バレーボールで男女一緒に練習する中から、一緒にチームを作って試合を楽しむようになったのが始まりといわれている。中高年競技者も活躍できるなど、現在この方式での大会も各地で広がっている。

また、2008年には新日本スポーツ連盟全国祭典ミックスバレーボール実行委員会と日本混合バレーボール協会とがミックスバレーボールの発展のために協同する事が確認されている。

## 総会と加盟クラブ交流大会を同日開催し、意義ある充実した一日に!

(中野卓球協議会)

東京卓球協議会には、現在11の地域協議会組織があります。その中で500名を越える組織人数を誇っている唯一の地域協議会が中野卓球協議会です。卓球大会も年間8大会を開催し、規模的にも大きい大会となっており、区民の要求に応じています。

総会は、中野体育館の会議室で1月10日の午前9時10分から10時までの短時間で行なわれ、そのあと加盟クラブの交流大会が行なわれました。これまで総会といえば、どこの組織でもなかなかクラブからの代議員が集まらず苦労してきた経緯がありましたので今回のような開催はひとつの展開です。

代議員の出席は21名で従来より出席者は徐々に増え始めています。総会は、これまで中野卓球協を育ててきたベテランも含め9名の運営委員会を選びました。今後のさらなる議論と活躍が期待されます。(北川)



## バタフライを「楽に長く」泳ごう！ 水泳技術講習会兼認定指導員研修会（東京水泳協議会）

「バタフライはきつい」—多くのスイマーが苦手意識を持っている種目とされるバタフライ。毎年、一月に開かれる指導員研修会ですが、今回のテーマ、「楽に泳ぐバタフライ」には、大変興味を持って参加しました。

講師は1万メートルをバタフライで泳いだこともある高橋伍郎先生。私も、1万メートルとまでいかずとも、せめて100メートルを楽に泳ぎたいと強く願って、講義に耳を傾けました。

優雅に飛ぶバタフライ（蝶）になるために、卵から毛虫、そしてさなぎの段階を経て成長していくというユニークなたとえで、初級バタフライを習得する過程を説明して下さいました。

午後は先生の実技を見せていただきましたが、あまりに今までのバタフライのイメージとかけ離れていたため、正直、「これがバタフライ？」と首をかしげたほどですが、実際に順をおって私たちも練習していくうちに、初心者の方はゆっくりなめらかに、すでに泳げた方は力の抜けた泳ぎに、それぞれのレベルで「楽なバタフライ」に仕上がっていました。最後には全員で200メートルをバタフライで完泳して研修会は終了となりました。

私にとっては200メートルをバタフライで泳ぐなど、それまでは考えられなかったためそれは感動ものでした。それをぜひ、教室で私が教えてい

る生徒さんに伝えたいと思い、すぐにその週の練習会で実践しました。すると余分な力が抜けて皆さんが楽に泳いでいるのにまた感動！とても価値ある研修でした。

長年水泳を研究され、御自身もマスターズスイマーとして現役で活躍されている高橋先生の言葉には説得力がありました。

また、参加者にはかなり高齢の方も多かったようで皆さんの意欲と熱意にも励まされた一日でした。

（スイスイスイミングクラブ  
指導員・背山）

## 競技大会で最高のパフォーマンスを！ 「レーシングキャンプ」 （東京スキー協）



することは難しい状況です。それでも、「競技大会に出場する前に練習をしたい」というスキーヤー（競技初心者を含む）の練習をする機会を多くつくるため、共催企画が行われています。

1月10日～12日には、東京スキー協と群馬スキー協の共催で、レーシングキャンプが行われました（片品高原スキー場）。コーチには、国体優勝経験のある星野秀太氏を迎え、実践的なコース設定の中で、それぞれの課題に取り組んでいました。

また、恒例となっている大会前週の

練習会は、東京スキー協とスラロームスキークラブの共催、大会前の金曜日に行われる「前日練習会」は、「ATTACK」スキークラブの全面的な協力など、加盟クラブの協力で練習会が行われています。

それぞれの練習会が、「東京で生活するスキーヤーが、数少ない競技の場で精一杯力を発揮するための取り組み」となっています。（井上）

例年2月第1週に開催されている東京スポーツ祭典「G S L 競技大会（アルペンスキー大回転競技大会）」（主管：東京都勤労者スキー協議会、1/31,2/1開催）にむけて、1月は競技練習会が盛んになっています。

スキー競技は、ポールを設置するためのバーンを借り、ポール・ドリルなどの道具も用意し、コース設置の知識のある人も必要…と、通常のスキーに行く以上に労力もお金もかかります。したがって、単一のクラブで練習会を



## 「区連盟が必要、そのために君の力を貸してくれないか」

「1月22日には中村南スポーツ交流センターがオープンされるんだよ。この間の粘り強い要請がようやく実り区内に7館構想の最後の体育館ができたんですよ。」と嬉しそうに話し始めました。

練馬区連盟の理事長の他にも、「美術家平和会議」、「練馬・文化の会美術展」などの多彩な活動に取り組んでいます。2年ほど前に定年退職されるまで、休日は会議や試合等で埋まっていたそうです。そんな多忙な中でもスポーツを続けてきた理由を吉田さんはこう語ります。

### 争いをやめさせ、世界を一つにする力

「競技を通じて勝負だけでなく、交流し感動がある。それがスポーツの最大の魅力。戦争や争いを止めさせ、世界を一つにする力があると私は信じている。オリンピックだって交流する事が元来の目的なんだ。」

たしかに、仲間と一緒に汗を流し、切磋琢磨して、その後に晩飯を食べながら（時には一杯やりながら）語らう時間は何物にも代えがたい。こういう事を通じて人とのつながりも深め、広げていける。

### スポーツ連盟でこそ花開く

「そういうスポーツの持っている魅力を広げるうえでスポーツ連盟の活動は非常に意義がある。でも、実際に行くには困難なこともある。」と吉田さんは苦笑いしながら話を続けられました。吉田さんがスポーツ連盟に出会ったのは約20年前。健康を取り戻すためにテニスを始めましたが、練習場所の確保が難しくなり

東京都三宅村出身。

中学、高校時代に卓球、バスケットボール等のスポーツを経験しながら、美術部にも所属していた。高校卒業後、仕事の関係で中央区から練馬区に転居。30代半ばに体調を崩したが、それをきっかけに運動療法の意味を兼ねてスポーツを再開した。転職もしアルミニウムの鑄造技術関係の営業をしながら、練馬区卓球協議会の設立に関わり、現在練馬区連盟理事長。

趣味は絵画。風景画を中心に国内外問わず多くの作品を描いている。



ました。その後、卓球を再開したことをきっかけに東京卓球協の役員だった後藤眸さんに誘われて連盟に加盟。そのまますぐに練馬区連盟の役員になり練馬区卓球協議会を立ち上げますが、役員数が少なく運営に苦勞したといいます。年6回の練馬の卓球大会を行うために、最低でも大会一つにつき、3回は運営委員会を開く必要があるそうです。

### 多くの人々の要求をまとめあげる

「やはり大会などのスムーズな運営には、多くの人々が参加することが絶対必要。そのためには、加盟クラブの人間同士で交流を深めるのが大事だと思い、合宿にも取り組んだ。練習もし、一緒に寝泊まりする事で交流の輪ができた。そこで、『こういうスポーツを楽しみたいという要求を実現するためにも、クラブや種目を越えた区連盟が必要。そのために君も力を貸してくれないか』と説得して組織を大きくしてきました。」また区連盟の活動では、なるべく役員の仕事の負担を減らす努力もしたそうです。「やはりスポーツがやりたくて連盟に入ったんだから、役員をやっても試合にも出てきちんと練習できる時間を確保できなきゃ誰もやりたがらないよね。」

その後、区連盟の理事長になり、様々なスポーツ権活動に取り組み、こう実感したといいます。

「足りない運動施設や文化施設などを充実させるには、それをする人たちが自らの問題という意識を持つことが必要。自分たちの要求を叶えるために行政に働きかけるという考え方をもっと育てていきたい。」

インタビューの後には、アトリエに案内され、たくさんの絵画を鑑賞させていただきました。吉田さん曰く、「形に残るこういう芸術もあるが、スポーツというのはその時その時の、『瞬間の芸術]なんだ。」という事です。なるほど、私達も芸術家の一人だったんですね。

第五十六回平和美術展に出品された作品「小樽」  
この作品が印刷された絵葉書をお土産に頂きました。



練馬卓球協で行った合宿の1コマ  
右端が吉田さん  
みなさんとても楽しそうですね

## 第22回理事会報告

出席 11 人

### ◆オリンピック意見交換会

12/10 に第 1 回を開催し、1/16 には第 2 回が開催される。第 1 回には 7 団体が参加し、意見交換を行った。2016 年にオリンピックを東京に招致することについて、反対する立場で一致したが、その理由などについて様々な意見が出された。第 2 回では、引き続き意見交換を行った上で、4 月頃にシンポジウムを開催し、それにあわせて統一宣伝物をつくること、その他宣伝アピールについて検討すること、シンポジウムにむけて連絡的な実行委員会を設置することなどが話し合われた。

### ◆東京バレー協について

リーグ戦の消化と分担金の納入について、かねてから困難となっていた東京バレー協について経過が報告された。12月に予定されていた総会は、1/21 に延期されたこと、評議員会には、08 年分担金の減額を提案することなどが話し合われた。

### ◆首都圏青年ユニオンとの懇談

「派遣切り」などで「スポーツどころではない」という人が急増しているもとの、「連盟として何かできないか」という趣旨で、首都圏青年ユニオンと懇談した。職場が個々に分けられ、予定も立てにくいという人たちにとっては、「道具や参加費などを心配せずに気軽に参加できる行事があればきっと参加するだろう」とのこと。今後、各種目・地域に具体化を呼びかける。

### ◆都連盟総会準備（議案以外）

総会関連文書の確認、1 期 2 年での決算・予算の取り扱い、次期役員体制についてなどが話し合われた。

### ◆総会議案について

働く環境などの社会情勢がスポーツに影響を及ぼしていることは明らか。そのもとでも愛好者がスポーツを求めていることを盛り込む。自治体としての責任については、都が住民本位を尊重していない点、北区では学校体育館をスポーツ施設として位置づけ、区連盟の全事業を後援していることなどについて、意見が出された。

### ◆「スポーツのひろば」拡大について

キャンペーン期間（12 月末）の実施により、25 部拡大し、9 月号比で 19 部増となった。

## 第6回評議員会報告

出席 9 人

### ◆経過報告

（理事会報告参照）ほかに、施設整備署名について、対都交渉・オリンピック問題、「ユネスコ体育・スポーツ国際憲章 30 周年シンポジウム」（08 年 11 月）など。

### ◆バレー協分担金について

理事会提案の減額案を総会に提案し、決算事項として決議することが確認された。

### ◆都連盟総会関連文書の確認

総会構成組織と代議員数、評議員数、役員数、役員選考委員会の設置などが確認された。

### ◆総会議案討論

ミックスバレーボールなどの新しい動きを取り入れる必要あり。施設問題では、指定管理者制度導入の実態、都立施設で大規模イベントを優先する都の姿勢の問題などが話し合われた。

#### 経過と予定

12/8	第 21 回理事会
12/10	第 1 回オリンピック意見交換会
12/17	自由法曹団東京支部との打合せ
12/18	第 8 回バレーボール対策会議
12/19	首都圏青年ユニオン懇談（伊賀野、井上）
12/23	北区ナーレ（北区祭典閉会式典 150 名参加）
1/6	東京地評旗開き（井上）
1/8	「OUR SPORTS 東京」編集会議
1/13	第 22 回理事会
1/16	第 2 回オリンピック意見交換会
1/17	第 6 回評議員会
1/20	第 28 回全国スポーツ祭典実行委員会
1/21	東京反核平和マラソン第 2 回実行委員会
1/21	東京バレー協総会
1/24	革新都政をつくる会総会
1/31,2/1	全国連盟理事会
2/5	「OUR SPORTS 東京」編集会議
2/7	東京ランニングクラブ総会
2/9	第 23 回理事会

※ 3 月 14 日（土）東京都連盟第 46 回総会

（井上）

## 都連盟スポーツカレンダー 2009年3月

都種目組織	期日	行事名	会場
卓球協議会	3月1日、8日	ABC=XYZ団体	駒沢体育館
	3月30日、31日	中高生大会	東京体育館、駒沢体育館、武道館
サッカー協議会	3月1日	春季トーナメント大会	駒沢第1球技場
バドミントン	3月20日	多摩春季バドミントン大会	国分寺スポーツセンター
野球連盟	3月1、15、29日	リーグ戦	中央公園野球場、新荒川大橋野球場
スキー	3月7日、8日	第3回研修会+検定会	
	3月20日～22日	スノージャンボリー	志賀高原・一の瀬スキー場
ウォーキング	3月15日	里美公園から矢切りの渡し	JR市川駅改札口
ソフトボール	3月20日	東京春季フェスティバル	駒沢軟式野球場
	3月29日	東京春季フェスティバル	駒沢軟式野球場
バレーボール	3月21日、22日	リーグ	駒沢屋内球技場
地域連盟・地域組織	期日	行事名	会場
<b>北区連盟</b>			
バレー	3月28日	スポーツ祭典冬季シニアバレー	滝野川体育館
卓球	3月7日	ABC=XYZ団体	桐ヶ丘体育館
ランニング	3月22日	月例赤羽マラソン	岩淵堤防土手
<b>練馬区連盟</b>			
テニス	3月22日	第21回NERIMA CUP	土岐田庭球場
<b>板橋区連盟</b>			
卓球	3月12日	スポーツ祭典城北ペアマッチ	上板橋体育館
バレーボール	3月15日	レディースオープンリーグ①	赤塚体育館
ミックスバレー	3月22日	スポーツ祭典オープンリーグ⑤	赤塚体育館
<b>中野区連盟</b>			
卓球	3月20日	春季団体戦	中野体育館
テニス	3月15日	新日本スポーツ連盟春季テニス交流会	上高田体育館
<b>新宿区連盟</b>			
卓球	3月8日	トリオマッチ	新宿スポーツセンター
バドミントン	3月22日	春季ダブルス	新宿スポーツセンター
<b>大田地区</b>			
卓球	3月7日	シングルス(Pリーグ方式)	大森スポーツセンター
<b>世田谷地区</b>			
卓球	3月29日	3D大会	世田谷総合体育館
<b>多摩地区</b>			
卓球	3月11日	Pリーグ	柴崎体育館
	3月30日	多摩ジュニア大会	立川・泉体育館
バドミントン	3月15日	多摩春季大会	国分寺市民スポーツセンター

## 編集後記

「OUR SPORTS 東京」の定期発行をめざして半年がたちました。理事会に編集委員会を設置して、月1回の編集会議を行って…以前よりずっと多くの時間をかけて作成するようになりました。記事の内容も種類も多様になったのではないかと考えています。

ところが、やればやるほど、まだ紙面が足りないと感じるようになりました。もっとたくさんの方が、たくさん手をかければ、都連盟の各組織の活動には、まだまだ伝えるべきことがあると感じています。みなさんの多様な魅力ある活動を少しでも多く伝えられるように、今後もがんばっていききたいと思います。(井上)